



Gallery2122 オープン記念企画 Vol.1

# ハタ ヨシユキ 個展

2024.04.19<sup>fri</sup> - 05.06<sup>mon</sup>

開廊日：毎週土曜・日曜 + 4/19、4/29、5/3、5/6

開廊時間：11:00-18:00 入場無料

GALLERY 2122  
OPENING COMMEMORATIVE  
EXHIBITIONS VOL.1  
YOSHIYUKI HATA

運営：NEUTRAL（京都府京都市上京区皂莢町 287 堀川新文化ビルディング 2F）  
実施主体：京都府住宅供給公社

# 存 在



GALLERY  
2122

Gallery2122 オープン記念企画 Vol.1

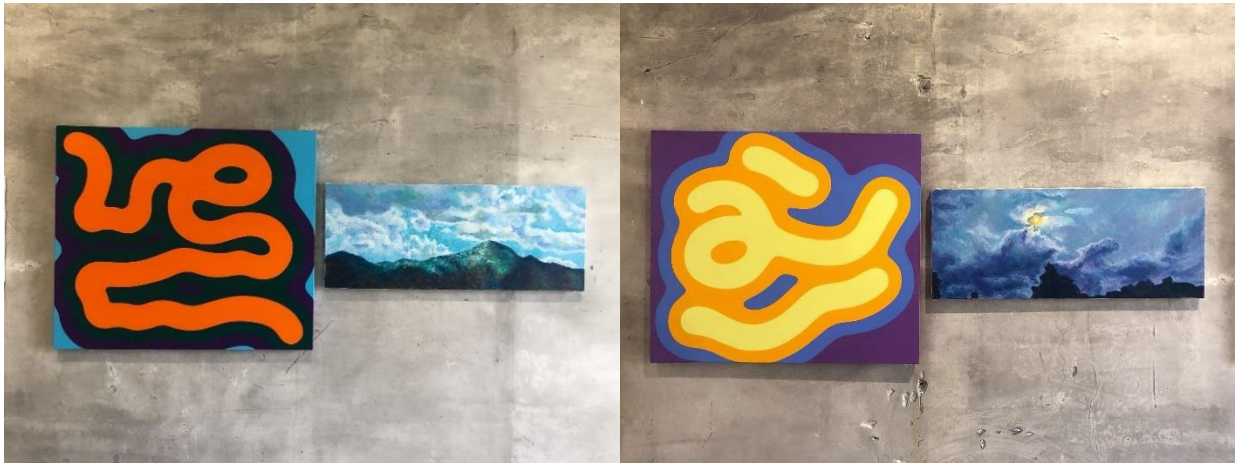
ハタヨシユキ個展 — 存在 —

画家・ハタヨシユキさんインタビュー

—作品の制作スタイルについて教えてください。

いつもは、日常にある風景をまず風景画として描いて、そこから受けたインスピレーションを元に抽象画を描く、というのが基本的なスタイルです。風景画と抽象画、2点をセットで描くことが多く、今回の展示でも交互に並べています。

この、風景画を抽象画に描き直すという行為は、「ハタ語」と呼んでいる自分の言語に翻訳するという試みです。抽象画のみの作品もあるのですが、まず翻訳しているセットの作品を見た後に見ていただくことで、より自分の感情が直に伝わるのではないかと考えています。



『ハタ語.22.06.14:13』『ハタ語 .22.06.19:45』

—「ハタ語」はいつ頃できたのでしょうか。

約3年前です。はじめはシンプルな風景画と、うねうねとした抽象画を別の作品として描いていました。きっかけになったのは、美大を中退して、長く住んでいた京都市を離れ綾部に移住したことです。綾部に来てから心が解放される感覚があり、直観に従い自分にとって気持ちよい表現を目指すようになり、今の制作スタイルになりました。「ハタ語」と名前がつくのはその半年くらい後のことです。

—展示のテーマについて教えてください。

今回の展示は「存在」がテーマです。見ていただくとわかりますが、作品タイトルが日付、作品によっては何分何秒という時間になっています。作品を制作した時、その日その時、その場所で感じた感情を表現しています。全体を通して見たときに、その一瞬一瞬に『ハタヨシユキ』が“存在”している、という記憶を強く刻むために描いています。

—今後の展望などあれば教えてください。

「ハタ語」については言語を習得しているような感覚があって、描けば描くほど、自分の感情にぴったりの作品が生まれつつあります。このまま描き続けたら、その先に何かあるんじゃないか、という気がしています。その景色をどうしても見てみたいので、できるだけ長

く描き続けたいと思っています。

また、この「ハタ語」というスタイルには可能性を感じていて、他の人の言語とコラボしたりできればいいなと思っています。



『ハタ語.22.12.11:56』『ハタ語.22.05.18:48』『ハタ語.清涼の希望』

—他に活動されていることはありますか。

今回のようなシンプルな展示も行いますが、アートとフードを組み合わせたイベントを主催しています。自分で料理はしませんが、料理人と一緒に、何かを食べたり飲んだりしながら絵を鑑賞するイベントです。古民家などを会場にして、家のような雰囲気の中フランクにアートを楽しんでもらえたらという気持ちで開催しています。

—展示を見に来た方に一言お願いします。

今回展示している絵は全て現在住んでいる綾部市の風景です。山が近くて自然が多く、と

でも気に入っています。めちゃくちゃいいところなので、機会があればぜひ綾部に来ていただいて、実際の風景を見てもらいたいです。ハタ語に翻訳された風景を体感いただけるかと思います。

(インタビュー：2024年4月27日 場所：Gallery2122)



### ハタヨシユキ | HATA Yoshiyuki

京都市に生まれ、現在は京都府北部の綾部市に在住。2014年京都精華大学イラスト学科入学 2018年に中退。2021年秋に綾部市に移住。2023年綾部市を中心にアートとフードを組み合わせたイベントを主催。